

部活の思い出

金屋中・1 小野 美雅

生まれてはじめての部活
生まれてはじめての先輩
明日から私は中学生になる

入学式当日
心臓がどくん、どくん、
そう音を鳴らしながら教室に入った
頭が爆発するほど緊張した

月日が過ぎるのは
驚くほどあっという間で
一週間ほどが経ち
私も気の合う友達ができた
二か月ほどが経ち
部活の体験入部が始まった

私は吹奏楽部に行った
緊張で胸がドキドキしたが
先生も先輩も
太陽のような笑顔で迎えてくれた

その時点で私は決心した
「この部活に入りたい」と

本入部して楽器が決まった
名前は、ユーフォニアム
相棒のように大切に扱った

口を聞いてくれないかのように
初めは音は鳴らなかったけれど
けれども日が経つごとに
音階が吹けるようになった

続けていくうちに
音階が吹けるようになった
まるでおしゃべり上手になった相棒
そんな相棒との毎日とはとびきり楽しい

合奏のとき
高音を吹くことが多く
不安になることもあるけれど
吹けたときの喜びが
何よりもたまらない

その喜びをまた感じたくて
演奏の楽しさを感じたくて
私は日々練習をしている

今は金中祭の練習真っ最中
金中生や先生に
すてきな曲を届けられるように
本気で頑張っている

大変なことも

もちろん嫌なこともあるけれど
その分嬉しいことも

楽しいこともあるから
私は練習を頑張れるんだ

これからも相棒とともに
練習を重ねて

最高の音楽をつくっていきたい

これからもよろしく相棒
吹奏楽部に入れてよかった